

| | | | |
|---------|---|---------|---------|
| 氏名 | 安原高士 | | |
| 学位の種類 | 医学博士 | | |
| 学位授与番号 | 乙 第1673号 | | |
| 学位授与の日付 | 昭和61年9月30日 | | |
| 学位授与の要件 | 博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当） | | |
| 学位論文題目 | 消化器癌患者の末梢血T cellのHelix pomatia A hemagglutinin結合活性の検討 第1編 ^{125}I 標識Helix pomatia A hemagglutininのリンパ球 への結合活性測定の基礎的検討 第2編 臨床検討 | | |
| 論文審査委員 | 教授 木村郁郎 | 教授 太田善介 | 教授 折田薫三 |

学位論文内容の要旨

T cellのsurface markerの1つとしてHelix pomatia A hemagglutinin (HP) のT cellに対する結合活性を検討するために第1編ではHP結合活性測定法の基礎的検討、第2編ではHP結合活性の臨床的検討を行なった。

第1編では、HPを ^{125}I で標識し、 ^{125}I 標識HPをaffinity chromatographyで分離精製した。基礎的検討の結果、 ^{125}I 標識HP結合活性の標準測定法としてneuraminidase処理リンパ球 $2 \times 10^6/ml$ 、 ^{125}I 標識HP $0.8 \mu\text{g}/ml$ を 25°C で1.5時間incubateすることを採用した。

第2編では、悪性腫瘍患者、良性肝疾患患者、健常人を対象に末梢血T cellのHP結合活性を検討した。悪性腫瘍患者末梢血T cellのHP結合活性は良性肝疾患患者、健常人に比し有意に高値を示し、悪性腫瘍患者ではT cellのsubsetの変化、或いはT cell全体の細胞表面の変化のいずれかの生じている可能性が示唆された。また、末梢血T cellのHP結合活性は臨床的な腫瘍のmarkerになりうる可能性が示された。

論文審査の結果の要旨

本研究は消化器癌患者の末梢血T cellのHelix pomatia A hemagglutinin (HP) 結合活性について基礎的、臨床的に研究したものであるが、従来十分確立されていなかったその測定法について検討し悪性腫瘍患者では末梢血T cellのHP結合活性はコントロール

に比し高値を示し、臨床的に腫瘍のマーカーとなりうることを認め、重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。